

はまなす句会（三月十五日）（百二十回）

薄氷に力ぬきたる息づかい

圭二

フルートに春の音色をのせており

菊枝

日差しにも力のありて春隣り

由美子

春来たと窓辺で鳥の声せわし

久子

春疾風あえて向いて歩を進め

克司

紅梅の乙女のごとく恥らいて

玲子

春の川水草ゆっくり動きけり

則子

